

園 長 通 信

ちぐさこども園 園長 榎渕 洋介 2020.07.31 Vol.19

《木を切る》

年長のお泊まり保育で「キャンプファイヤーをやりたい」という子ども達6人が、燃やす木が必要だということで、園庭の木を切ることになりました。桜の木を切るために、皆でノコギリと脚立を用意して、切り始めます。しっかりした木(太めの枝)は高いところにあり、脚立に登らないと届かないため、切るのは1人ずつ。登って切る人、揺れやすい脚立を支える人、登らなくても届く細い枝を切ろうとする人、周辺で見ている人に自然とわかれしました。

いの一番に登ったS君が積極的に切り出します。ところが角材と異なり、自然に生えている枝でしかも不安定な体勢なので、なかなか切れず断念。「オレも！」と揚々と交替したKE君もまた断念。2人を下でじっと支えていたKK君が切り手になると、根気強く歯を進めます。「もう少し」「あとちょっと」「頑張れ、KK君！」下から声援があがります。「やったー。切れた！」応援していたYちゃんが満面の笑顔で拍手する中、KK君も満足そうな軽やかな笑顔をしていました。

《“みんな”でする》

園ではよく“みんな”という言葉が使われます。今回も“みんな”で木を切る」という場面でした。一方で、実際にノコギリを持って直接的に木を切っているのは1人です。KK君が頑張ったのは間違いありません。KK君の根気や実直さはとても印象的で、その場にいた私も感動しました。ただ、KK君が作業員のように、全部一人でやって木を切っていたら、あのいい笑顔、いい雰囲気は生まれたのでしょうか。先にやったS君、KE君を見て、Yちゃんの声援や拍手があつてこそ、あの場面は生まれたのだと思います。

「みんなでする」ということは、みんなが同じことをするという意味ではないと考えます。同じ時間や同じ場を共有して、(今回は目的も共有して)、それぞれが自分を発揮(表現)するのが、園の中で目指したい「みんなでする」です。それぞれ一人一人が自分らしくあること、その重なり合いで生まれた喜びを分かち合いたいと考えています。

《いろいろな“参加”がある》

最近コロナのために行われている、様々な試合や公演の無観客。選手の感想からもわかるように、観客の有無で、会場の雰囲気も選手の意識も(多分プレーも)全く異なるようです。たまに中継を見ても、何だか味気ないと感じるのは私だけでしょうか。する人は大事だけれど、みる人がいてこそその感動(雰囲気)があることを如実に物語っているように思います。

特に、園は日々変化していく子ども達の間です。今日見ていたことを明日するかもしれない。来年するかもしれない。プレーヤーと観客が入れ替わるのは日常茶飯事です。その場限りのひと場面を捉えて、「する」ことだけを評価するのはもったいない。目の前で起こることへのいろいろな参加を認め合い、私たち大人も参加者の一人として長い目で楽しんでいきたいものです。

【1学期トピックス】

●様々なコロナ対応がありました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、1ヶ月半弱にわたる登園自粛要請をはじめ、行事の中止、変更、延期、消毒機材の導入等々、社会情勢同様に、様々な対応を行いました。そんな中でも、一定程度、子ども達が育ち合う保育の場を確保できたことは、私たちの喜びであり、誇りでもあります。

それも一重に、保護者の皆様のご理解ご協力のおかげと深く感謝いたします。この状況はまだまだ続く様相ですので、引き続きご協力をよろしくお願い申し上げます。